

地域森林資源を活かす 「森林資源フル活用事業モデル」構築のご提案

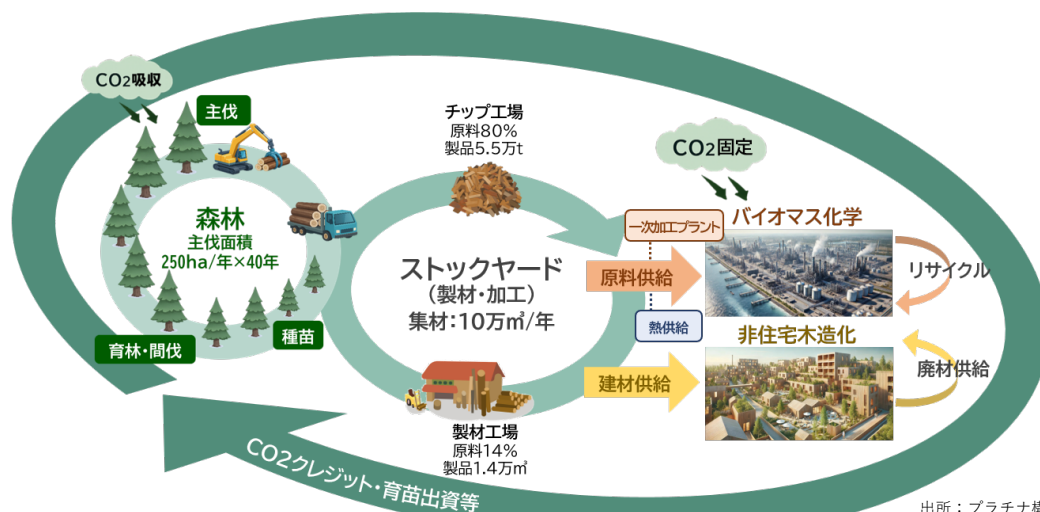
— 年間 10 万 m³規模を基準ケースとする実現可能性調査 (FS) —

■ 提案の趣旨

人口減少、地域産業の縮小、カーボンニュートラルへの対応が同時に求められるなか、地域の森林資源を「育てる・伐る・集める・使う・再資源化する」まで一体で捉え、地域産業として持続的に循環させる仕組みづくりが必要です。プラチナ構想ネットワークは、その具体像として「森林資源フル活用事業モデル」の構築を提案します。

■ 各地で実現を目指す「森林資源フル活用事業モデル」

高効率な原木集材環境(ストックヤード)を核に、製材・木造建築・バイオマス・化学利用等の需要を同時に設計し、森林整備から地域内利用、端材・副産物の活用、再資源化までを一つのサプライチェーンとして成立させます。



出所：プラチナ構想ネットワーク

■ なぜ「10 万 m³/年」を基準ケースとするのか

原木取扱量は、素材生産の生産性、地域内需要との接続、CO₂排出、雇用、設備・物流効率などを左右します。本提案では、県単位程度の需要サプライチェーンを再構築する検討基準として「10 万 m³/年」を置き、地域ごとの森林資源量・需要・輸送条件に応じて適正規模を検証します。

ストックヤードモデルの適正規模評価

	1万m ³ /年	5万m ³ /年	10万m ³ /年	25万m ³ /年
経済(生産)合理性	△	△	○	○
地域内需要想定	△	△	○	△
二酸化炭素排出 (環境負荷)	◎	○	○	△
雇用ポテンシャル	△	△	○	○
総合評価	△	○	◎	○

試算前提条件

- 400m³/haの素材収穫可能(人工林)
- 240日/年の林業作業日数想定
- 丸太輸送(10トン車超の燃費実態含む)については森林組合等へのヒヤリング平均

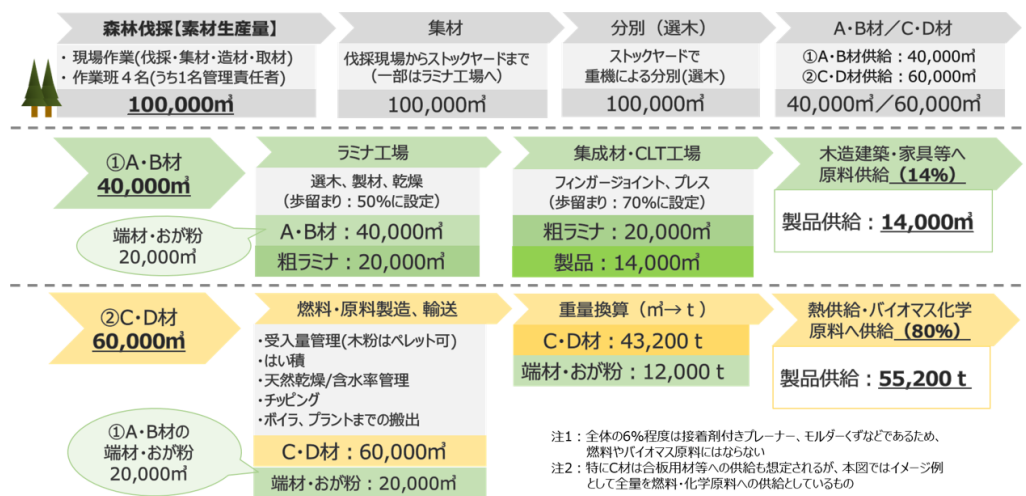
ストックヤードモデルのKPIベンチマーク例

項目	1万m ³ /年	5万m ³ /年	10万m ³ /年	25万m ³ /年
必要林地主伐 面積 必要苗木本数 (針葉樹)	25ha/年 50,000本	125ha/年 250,000本	250ha/年 500,000本	625ha/年 1,250,000本
集材量(m ³ /日)	41.7	208.3	416.7	1041.7
森林半径距離 (km)	10.0	22.4	31.6	50.0
丸太輸送距離 平均 (片道距離・km)	7.0	15.7	22.1	35.0
必要燃料 (軽油リットル/年)	6,720	52,752	148,512	588,000

出所：プラチナ構想ネットワーク

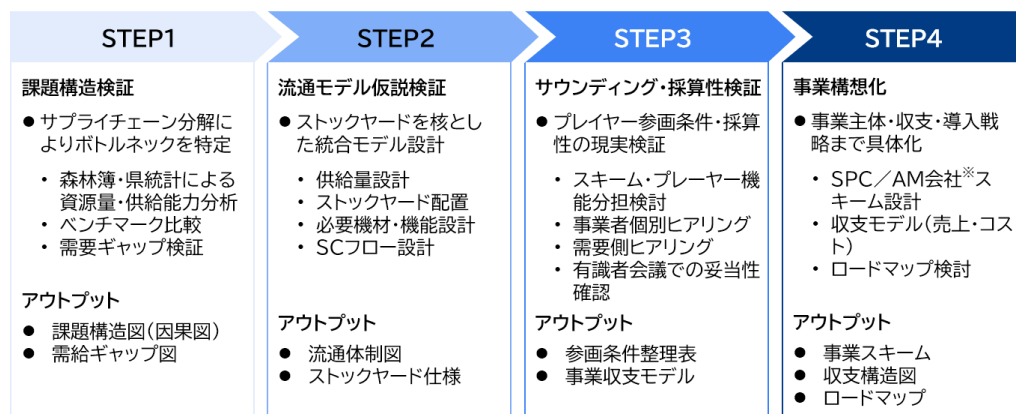
■ 森林資源フル活用事業モデル：10 万 m³/年サプライチェーン概略例

森林伐採・集材から製材・チップ化、木造建築・バイオマス利用までを数量で可視化し、「どこに、どれだけ資源があり、誰が、何に、どれだけ使うか」を一体で検証します。



■ 森林資源フル活用事業実現可能性調査（FS）

具体的調査・分析・ヒアリング・事業性評価は、課題構造の把握から事業構想化までを4段階で実施します。調査は、シンクタンク等に委託してください。プラチナ構想ネットワークは、調査の各段階でアドバイスします。



■ プロジェクト要件

対象	都道府県・市町村等
期間	8～10 か月程度
調査費用	専門委員会等の設置・運営・検討を含め 3,000 万円程度
主な成果物	森林資源フル活用事業モデル FS 報告書(森林資源分析、施業・素材生産コスト、ストックヤード事業収支、需給・事業スキーム、ロードマップ等)
基本姿勢	プラチナ構想ネットワークアドバイスのもと、「あるべき姿」から逆算して事業化の蓋然性を検証

■ 実施体制

プラチナ構想ネットワークは、各段階でアドバイスし、成果の妥当性や「あるべき姿」との整合を確認いたします。具体的な調査は遂行能力のあるシンクタンクやコンサルティング会社に委託してください。

現在、埼玉県で実施している類似の調査「令和8年度県産木材の新たな流通体制構築に向けた実行性調査等委託業務」では、プラチナ森林産業イニシアティブの会員企業である(株)三菱総合研究と(株)アルファフォーラム(プラチナ森林産業イニシアティブ森林・林業革新分科会リーダー)の共同事業体で実施しています。

■ お問い合わせ窓口

プラチナ構想ネットワーク(鎌形) 03-6858-3546 / shinrin-contact@platinum-network.jp

